

みどりの

題字 寺 門 光 輝

みどりの第93号

発行所 茨城キリスト教大学
茨城県日立市大みか町
6丁目11番1号
発行者 東海林 宏司
編集 地域・国際交流センター

地域・国際交流センターの取組について

地域・国際交流センター長 宮崎 晶子

今年度後期も、地域・国際交流センターでは皆様に協力いただき、グローバルにローカルに多くの取り組みを実施いたしました。その中から、今回は以下六件をご報告いたします。

一、食物健康科学科・(株)飛勤水産コラボ商品「鯖そぼろバーガー」販売会

食物健康科学科の学生考案のレシピを(株)飛勤水産に商品化していただいた「鯖そぼろバーガー」を十一月二十一日(木)一日限定販売いたしました。学園生協のご協力のもと、一〇〇食をご用意しお昼前に完売となりました。ご購入いただいた皆様、ありがとうございます。また限定のためご購入いただけなかった皆様、次回ご期待ください！



鯖そぼろバーガー

二、国土交通省「水道事業の啓発に向けた調査検討及びセミナー」の実施

水道事業の啓発に向け産官学の取り組みとして実施された本セミナーは、横浜ウォーター、城里町、本学学生(宮崎ゼミ二年、城里町在住学生)の三者の協力のもと開催されました。上下水道を維持する難しさ、変えてはいけないもの、変えなければならぬものを学生たちが考察し、同世代に向けメッセージを作成しました。本セミナーの様子はNHK「ニュース845」(十月二十二日)、水道産業新聞(十一月二十一日)、茨城新聞(十二月六日)でそれぞれ放送、掲載いただきました。ありがとうございました。

三、茨城県事業 社会人対象リスケリング講座

「初めてでもわかるデータサイエンス」の実施
計一〇回にわたり社会人を対象としたリスケリング講座を実施いたしました。本学専任教員・長谷川博康先生にデータサイエンスの基礎をお話いただき、受講生八名にご参加いただきました。今後必要の分野に関して社会人の皆様にリスケリングの機会を提供できればと考えています。

四、認定こども園&交換留学生コラボ事業 グローバル教育「世界を知ろう」の実施

本プロジェクトは今年度から開催し、イタリア(六月)、中国(七月)、ベトナム(十一月)の文化紹介を実施しました。みらい園、せいじ園の園児と本学交換留學生が交流し相互理解を促すことが目的です。十一月二十五日のツリー点灯式では「サンタが街にやってくる」を合唱し、世代も国籍も異なる園児と留學生が一緒に平和のメッセージを送りました。



五、

「多文化協働クリエイター」資格関連科目「多文化協働演習」の実施

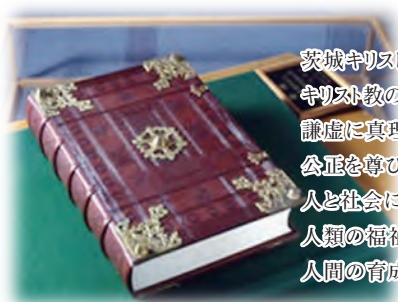
今年度の「多文化協働演習」(文学部文化交流学科)では、国田義務教育学校、かしま子ども大学、大みか小学校の計約七〇名に向け、文化紹介を実施しました。本学の交換留學生八名(韓国、ベトナム、インドネシア、イタリア)とインターン一名(アメリカ)、日本人学生が協働し分かりやすく説明できるよう繰り返し練習しま

六、

「多文化協働クリエイター」資格関連科目「外国人児童生徒支援演習」公開講座の実施

二〇二二年度から開始した「多文化協働クリエイター」資格に関連して、今年度初めて本公開講座が開講されました。全学部・学環の学生および卒業生が受講できるよう開設された本講座は、現在国内でも増加傾向にある外国人児童の支援を目的に実施されています。受講生たちは「やさしい日本語」を中心に外国人にとって外国語である日本語に触れ、学園の建学の精神でもある「共に生きる」を実践します。来年度も開講予定ですので、卒業生の皆様もどうぞご参加ください。

我が学園の教育理念



茨城キリスト教学園は
キリスト教の精神に基き、
謙虚に真理を追求し、
公正を尊び、真の隣人愛をもって
人と社会に進んで奉仕し
人類の福祉と世界の平和に貢献する
人間の育成を目的とする

グーテンベルク聖書復刻版

学校法人茨城キリスト教学園
キリスト教センター所蔵

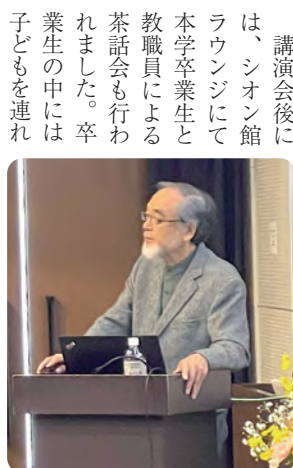
児童教育学科

幼児保育専攻二十周年

文学部 児童教育学科 主任 斎藤 遼太郎

二〇二四年十一月三十日に文学部児童教育学科幼児保育専攻(現幼児保育コース)以下、幼児保育専攻の二十周年記念講演会を開催しました。八〇一教室にて実施された本講演会には、本学の在学生・卒業生および教職員をはじめ、地域にお住まいの保育関係者が多数参加されました。この場を借りてたくさんの方にご参加いただいたこと、感謝申し上げます。

基調講演として、「保育・教育の現在と未来」―これからの保育士・教員養成―をテーマに、白梅学園大学名誉学長・全国保育士養成協議会会長の汐見稔幸先生にご講演いただきました。講演の中で汐見先生からは、現在の保育現場が迎えている課題として、アフターコロナの時代として求められる保育とは何か、待機児童問題が解消されつつある中で、量より質による課題は何かなど、現代という時代の特徴、課題を明確にし、あらためて保育で何を実現しようとするのか、議論し直す時期であることが指摘されました。また、養成校に求めることとして、自然の中での体験活動を学生にも味わわせてほしいこと、自治体や実習協力校との協同的な保育者養成を行ってほしいことが提言されました。



て参加してくださった方もおり、とても賑やかな会となりました。茶話会では幼児保育専攻の開設当時に文学部長であった鋤柄純忠本学名誉教授にもご参加いただき、開設当時の想いを伺うことができました。

幼児保育専攻は、県内では数少ない保育士資格と幼稚園教諭一種免許状を取得できる学科専攻です。この二十年に輩出した多くの卒業生が、現在現場で茨城県の保育の充実に向けご尽力されています。幼児期の保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、また、幼児期の遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期でもあります。幼児保育専攻では、これから地域の保育支援に力を注いでいく所存です。



現代英語学科二十周年

文学部 現代英語学科 准教授 沼館 ジェニー

現代英語学科

(DCE)は、今年、英語英米文学科から名称変更して二十年目を迎えました。この節目を祝うべく、去る九月七日(土)、新一号館にて二十年記念行事を開催しました。イベントには、DCEの卒業生やそのご家族、これまでDCEに携わった教職員、インターン生、在学生が一七〇名以上集まり、これまでの歩みを振り返りつつ、再会を喜びました。

開会式では、村上美保子学科主任と実行委員長である三年生の平山樹希さんが歓迎の言葉を述べた後、今回のイベントのロゴやキャッチフレーズを提供した学生への表彰が行われました。続いて、日本でジェンダー平等を推進するビジネスを立ち上げた卒業生の成多栄さんによる講演、現職DCE教員のヨシバ・ディビッド先生による「Media Literacy」と沼館ジェニー先生、ステイブンス・パトリック先生による



「English Communication」の模擬授業、元職員の新妻幹生さんによる地域密着型キャリアの構築を考えるワークショップ、在学生による「現代英語演習(ゼミ)」授業内容のポスタープレゼンテーション、現役学生が熱く語る「プロジェクト実習」の授業実践報告、そしてますます盛り上がりを見せるDCEならではの「チャットアワー」のコナー。さらには卒業生とそのご家族が本学のキャンパスと五号館を探索する「トレジャーハント」も行われ、多くの方々にご参加いただきました。子どもたちを連れて参加していただいた卒業生も多く、二十年の歴史が感じられる心温まるFesでした。

閉会式後は、現代英語学科の教員であり、本学の学長でもある東海林宏司先生が乾杯の音頭を取られた後、参加者は一号館五階のラウンジで、料理や飲み物を囲みながら、会話を楽しんだり、手作りのフォトスポットで写真撮るなどして、DCEでの思い出を振り返りました。

お忙しい中今回のイベントにご参加くださった皆さまに、現代英語学科関係者一同、心より感謝申し上げます。また、今回ご参加いただけなかった皆さまにも、またの機会にお会いできますことを楽しみにしております。これからも現代英語学科は、学生の成長を力強くサポートしていきます。これからは卒業生の皆さまにも見守っていただければ幸いです。



看護学部二十周年

看護学部長 栗原 加代



二〇二四年十月二十六日茨城キリスト教大学看護学部の開設二十周年記念行事が開催されました。開設時学長であられた瀧野修先生、初代学部長の山崎京子先生、開設にご尽力いただきました、川上美智子生活科学部教授をお迎えし、チャペルでの記念礼拝後、新しく建設された一号館五階のグローバルラウンジで卒業生も参加した祝賀会を行いました。二十年と申しますと、人間に例えれば、成人となり自己のアイデンティティが確立される時かと思えます。二〇〇四年に誕生した本学部は、ディプロマポリシーである、人々の「よき生」を支える育むことに寄与する「知恵」を持った看護に携わる人材の育成を目的のもと、豊かな教養と専門的能力を備えた学生を社会に送り出していまいりました。その間、各時代の要請に従ったカリキュラムを構成するため、二〇〇九年、二〇一二年、

二〇一五年、二〇一八年、二〇二二年と五回のカリキュラム改正を行い、その中で二〇一〇年に養護教諭一種免許取得のための教育を開始、二〇二二年大学院看護学研究科を開設、二〇二二年より保健師国家試験受験資格を選択制とし、二〇二〇年度からは選抜制を取り入れ、学生一人ひとりのキャリアデザインを重視した制度を構築してきました。おかげさまで、二〇二三年度までに卒業生一、四四一名県内一、〇七六名県外三三四名を送り出してまいりました。

この二十年間の中では、二〇一一年に東日本大震災の被災県となり、二〇二〇年には新型コロナウイルス感染症の拡大を経験しました。どちらも何十年、何百年の単位で起こる未曾有の災害や病気の蔓延でした。その厳しい環境下においても、学生と教職員が皆で協力して対処してまいりました。とりわけ新型コロナウイルス感染症においては、社会全体が歴史的な変革を求められる中、「教育のあゆみを止めない」のスローガンのもと、早急なる遠隔授業体制の確立を行いながらも、安全対策を確保し対面授業の実施、さらには基幹病院をはじめ実習施設の協力を得て、できる限りの臨地実習を実施することができました。教育および、医療関係者が私たちの仲間を育てるとの熱意によってなされた結果だと思っています。大変な経験でしたが、この難局と対峙したことをさらなる発展の機会ととらえ今後の糧にしてゆきたいと思っています。

最後になりましたが、創設にご尽力いただいた、茨城キリスト教学園常務理事であり、本学名誉教授で在らせられた瀧田薫先生が二〇二四年九月二日に天に召され、記念行事にご臨席いただけなかったことはとても心残りです。生前の先生にいただきました、たくさんのお恩恵に感謝しながらさらなる未来に向けて歩み出していきたいと思います。

キリスト教センター便り

キリスト教センター長 野口 良哉

キアラ館竣工五十周年記念事業を終えて

茨城キリスト教大学(学園)のキリスト教教育の象徴とも言える「サンタ・キアラ館」、通称「キアラ館」がめでたく竣工五十周年を迎えました。その半世紀の歴史を記念して、五十年前の竣工日と日時および曜日まで全く同じ、二〇二四年の十一月二日(土)に、記念レクチャー&コンサートを開催いたしました。

この日は、学園祭の初日でしたが、あいにくの雨という悪天候。にもかかわらず、会場となったキアラ館礼拝堂は、一六〇名の参加者であふれ、有意義な時を過ごすことができました。

第一部レクチャーでは、「孤高の建築家」、「哲人建築家」などの異名を取る、キアラ館の建築家・白井晟一氏(一九〇五—一九八三年)の直孫に当たる白井原太氏(白井晟一建築研究所「アトリエNO.5」代表)にご講演いただきました。祖父であり建築家



レクチャー&コンサートの様子



白井原太氏

である白井晟一氏について語っていただいたと同時に、建築の本質である「繋ぐ」ということについても深いお話をいただきました。

また、第二部コンサートでは、五十年前にキアラ館の施工を担当していただきました株式会社・竹中工務店のコーラス部の皆さんに演奏していただきました。

中世の修道院を模したキアラ館礼拝堂にびつたりのグレゴリオ聖歌や献堂式歌曲など、宗教曲を中心に一〇曲ほど歌ってください、その素敵なアカペラ四声がキアラ館にしっかりとこだましました。

ところで、そんなキアラ館竣工五十周年に合わせて、キアラ館のパンフレットを作成いたしました。キアラ館を訪れた方に差し上げたいと思います。なお、数に限りがありますので、在庫がなくなり次第、配布終了となります。ご了承ください。

ぜひ、機会を作って、キアラ館を訪れてみてください。大学チャペルや前後期の大学キリスト教講演会などは原則、どなたでもお越しいただけます。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



キアラ館パンフレット



竹中工務店コーラス部の皆さん

学生の活躍

今年もJR水戸支社企画

「いばらきまんぷくトレイン」 で学生が活躍！

地域・国際交流センター

十二月七日(土)、上野駅から発車する観光列車「いばらきまんぷくトレイン」(「茨城県内の様々な駅にてご当地グルメを積み込み、グルメを味わっていただきながら茨城の魅力を感じていただくイベント列車」)に現代英語学科四年の高橋幸希子さんと宮田和弥さんが車内放送およびツアー補助として参加しました。昨年度に同列車が運行した際、グルメの提供側として本学×(株)飛騨水産とのコラボ商品「鯖でばるバーガー」の配布、商品PRのための車内放送を担当した連携実績があり、今年度も参画する機会をいただきました。

担当した学生は、これまでに水戸市、日立市の観光大使や県内の地域活動等で活躍してきた二人です。

実は、当初先方から依頼された業務は下館駅から乗車し、各駅で積み込まれるご当地グルメや、常磐線沿線のおすすめのスポットを紹介する車内放送のみでした



が、関係者で初めて打合せをした際、「私たちにできることならお任せください!」という二人の力強い言葉やキャラクター性、彼女たちがこれまで培ってきた地域の情報量に期待し、「大甕神社」日立オリジンパーク見学コース」ツアーの参加者をご案内するお役も担うことになりました。

地名独特の読み方や各グルメの特徴なども含め、乗車直前まで念入りに練習をした成果でしょう。二人のアナウンスは、原稿を読み上げているのではなく、乗客の皆さまに「私たちがお客さまに伝えたいこと」として情報をお届けしようとしていたように聴こえました。宮田さんは、「水戸の梅大使」に応募したきっかけでもある偕楽園の「梅の美しさ」をたくさんの人に伝えたいという思いがあり、水戸市の説明は特に、一語一語丁寧に、そして上品さを感じるアナウンスをしていたのが印象的でした。高橋さんは、新型コロナウイルスの影響により、行動が制限される中でも大好きな日立のために「日立さくらメイツ」として活動した経験と、本学園中学校から現在にいたるまで通学している経験から、自身のオスメもふんだんに盛り込み、学園のPRにも大きく貢献してくれました。車内放送は車掌エリアとなるため、こちらからも乗客の皆さまからも互いの姿が見えませんが、目の前にお客さまがいるかのように笑顔を絶やさなかったことも二人のポテンシャルの高さを感じたところです。途中停車した駅では、乗



客の皆さまやJRの社員さんから「聴きやすい声だった」「この後も楽しみに聴きます」などのお声がけをいただき、彼女たちも喜びを噛み締めていました。

大甕駅到着後、数十名のツアー参加者をご案内するにあたり、特別に学園キャンパスツアーも実施。各ツアー施設のご案内を終えてからは、大甕駅の駅員さんと一緒に横断幕を持って列車のお見送りをいたしました。乗客の皆さまのご出身は県内外さまざまでしたが、二人の活躍によって大甕駅には「茨城キリスト教学園」という学校があることを知っていただけたと思いますし、学園のツアーによって中高エリアから聴こえる讃美歌、部活動に励む生徒の姿、大学主催イベントの誘導を行う学生等、それぞれの世代が活躍する姿を見ていただけたのではないかと考えています。担当した二人の学生、そして、このような機会をくださったJR水戸支社の関係者に感謝申し上げます。



地域・国際交流センター便り

国際交流関連

二〇二五年度 ホストファミリー募集について

本学では、オクラホマ・クリスチャン大学(米国)からの短期留学生の受入にあたりホームステイにご協力いただけるホストファミリーを募集しています。

どなたでも応募可能ですので「英会話を学びたい」「海外の文化を知りたい」「外国人との思い出を作りたい」など、ご興味のある方は以下のQRコードを確認のうえお申込みください。



地域交流関連

左記の情報を含む最新情報をこちらのページに公開しています。ぜひご覧ください。



聴講生制度

十八才以上の方が正規の学生としての身分を持たずに大学の授業を聴講できる制度。三月下旬に情報公開予定。

公開講座

前・後期に語学、カルチャーなどの内容を定期で、本学の特徴を生かした内容を不定期で開講しています。